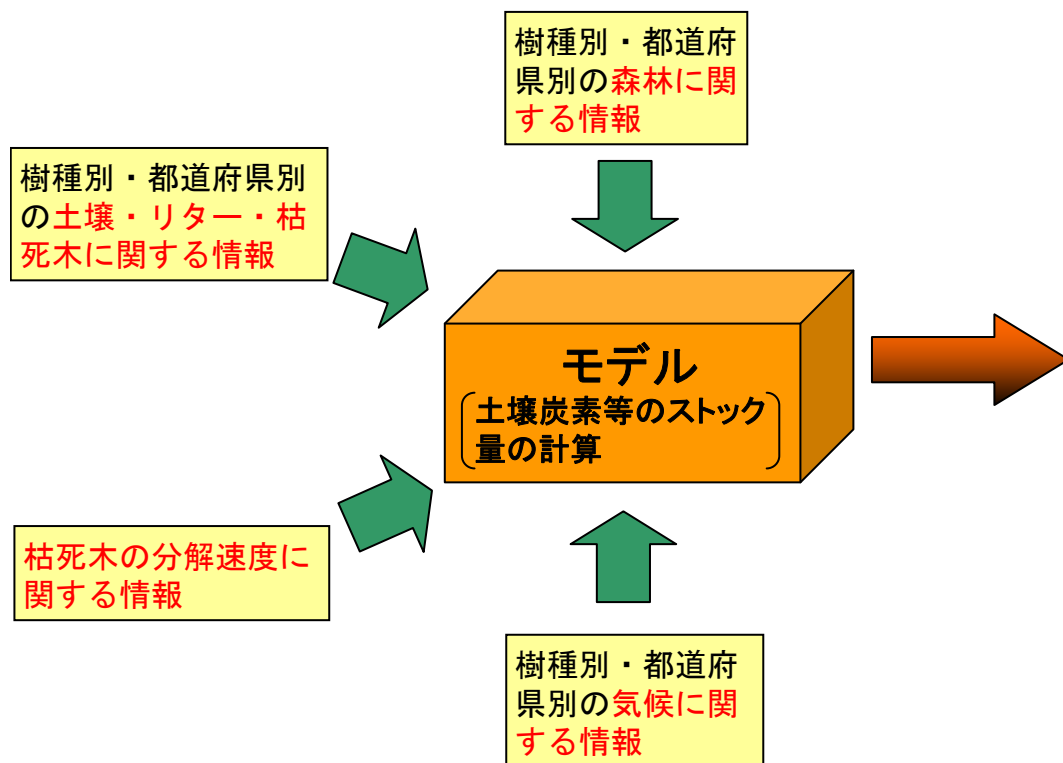
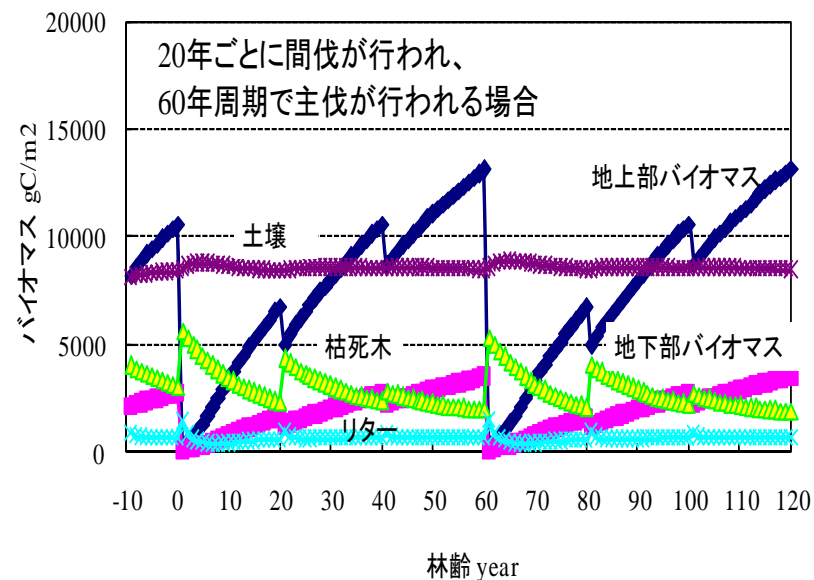


③森林土壌等に含まれている炭素量の算定方法

- 京都議定書においては、樹体(幹・根・枝葉)の炭素量*だけでなく、枯死木、地上に落ちた枝葉(リター)、土壌に含まれる炭素量も報告することとされています。
- 森林総合研究所では、枯死木、リター、土壌中の炭素量の経年変化を計算するため、日本の気候、土壌条件などの実情を反映したモデルを開発し、施業が行われた場合の変化を計算しました。



(例)



枯死木・リター・土壌中の炭素量計算モデルの概略